SBI Liquidity Market

元邦銀ヘッドオプショントレーダー鈴木亮がわかりやすく解説

Dailyオプション戦略レポート

2019年10月18日(金)

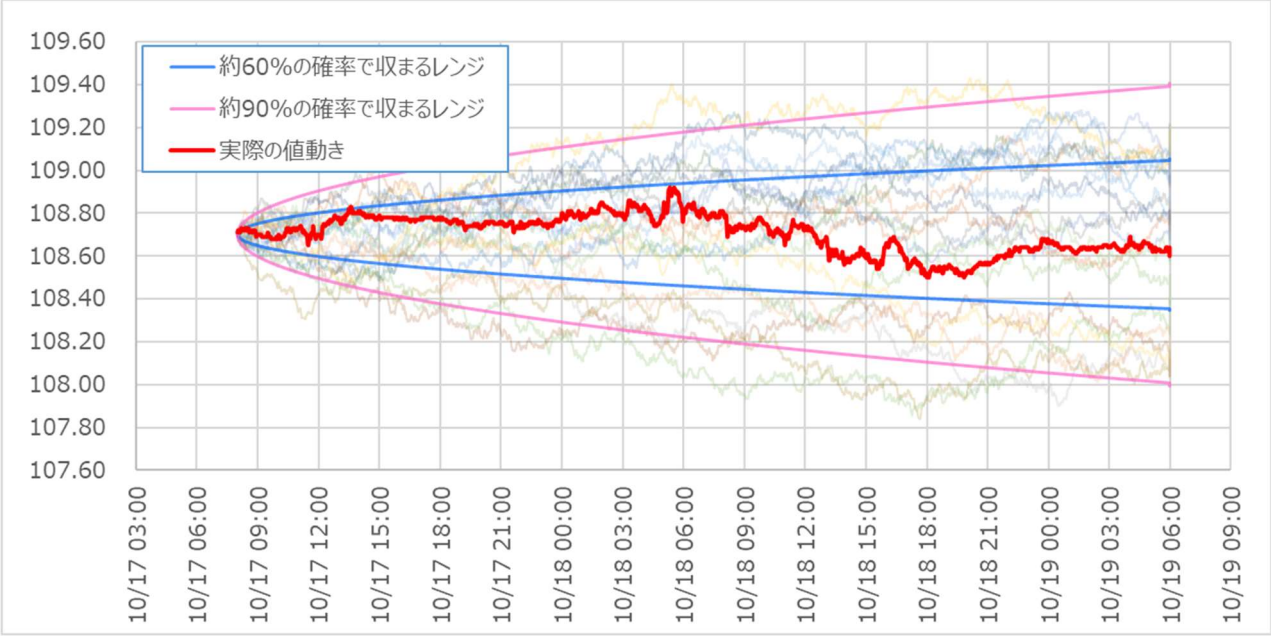
オプション市況

昨日の東京時間のドル円スポットはマーケットの焦点が英離脱交渉に絞られるなか、東京時間は動きづらい状況となり108円台後半で揉み合いに終始。そのまま東京クローズとなった。海外時間に入ると英ボリス首相がEUサミットにて離脱案の合意に達したことでポンド円が141円台半ばまで急騰。ドル円もつれて109円台近辺まで上昇した。しかし直後に英民主統一党が離脱案に反対するとの立場を示したことで、離脱案の英国議会承認が得られないリスクが意識されポンド円は上げをほぼ吐き出した。ドル円もポンド円に振らされて108円台半ばまで下落したものの、米国時間に108円台後半まで若干戻してニューヨーククローズとなった。**今後の焦点は明日土曜日に行われる英国議会採決で離脱案が承認されるかに移っている。**

後半のスポット・シミュレーションは必見です！

ドル円のインプライド・ボラティリティはスポットに値動きが見られたものの、ヒストリカル・ボラティリティを大きく押し上げる程ではなく、値動きは限定的。むしろ若干、手前中心に下落した。イベント的には金曜日に乗っていたEUサミットから波及するイベント・プレミアムが消化され、代わりに週末に離脱案の英国議会承認のイベント・プレミアムが新たに乗った格好。リスクリバーサルはインプライド・ボラティリティ同様、値動きは限定的となった。

昨日のスポット・シミュレーションと実際のスポット推移比較



重要イベント情報 (※1)

本日は中国の指標にトータルで0.5日分のイベント・プレミアムが乗っている。また、元々あったEUサミットに対するイベント・プレミアムは昨日消化され、その代わりに、**週末に控えた離脱案の英国議会採決に新たにイベント・プレミアムが乗っている。**

※1 SBIリクイディティ・マーケットでは重要イベントのイベント・プレミアムを日数ベースで管理しています。例えばある日本のイベントにおけるイベント・プレミアムが0.5日分の場合、そのイベントにおいて日本円を含む通貨ペアで0.5日分の値動きが出ると予想されている事を表現しています。

大口足情報 (※2)

やや遠いがドル円の107.85に大口足が観測されている。東京15時もしくは東京時間23時にかけてスポットが下記の大口足に近かった場合には、大口足に引き寄せられる可能性がある。

※2 オプション市場で観測されている大口のストライク、及び、取引量情報。オプション市場参加者による取引の影響でスポットはオプションのカットタイム(※3)にかけて大口足に引き寄せられやすいと言われている。1本=1百万通貨単位。
（出典：Bloomberg） （スポットの値動きを保証するものではありません）

※3 カットタイムは東京15時とニューヨーク10時(東京23時(夏時間)・東京24時(冬時間))の2つが主要なものです。

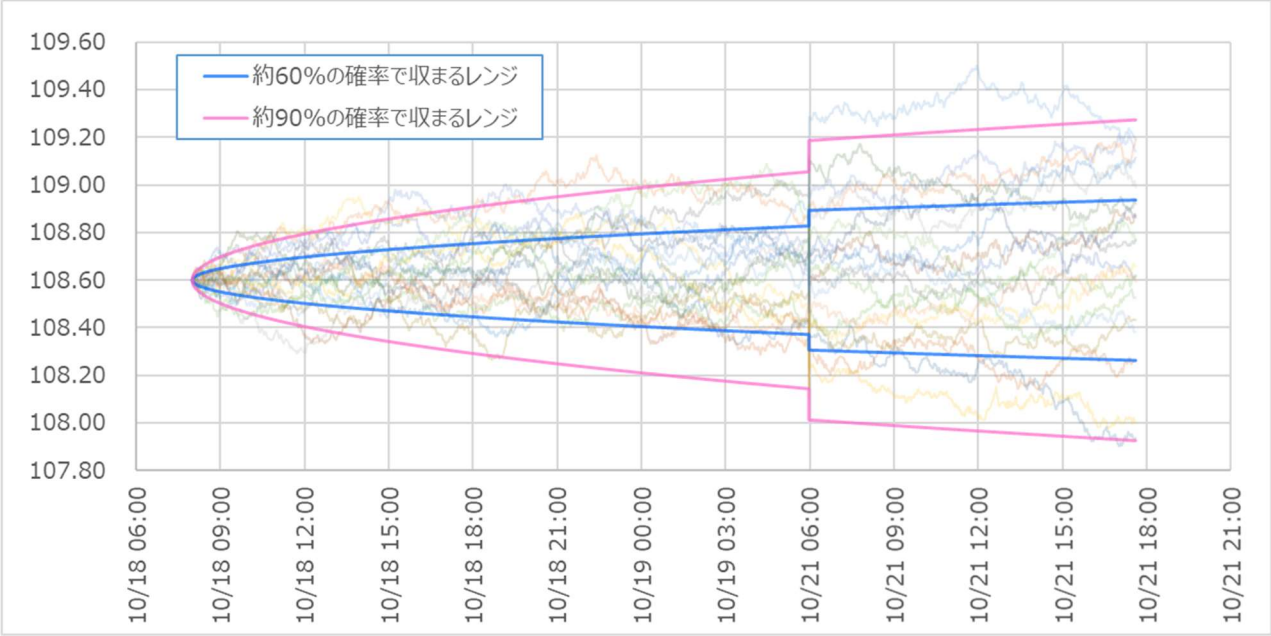
10月18日(金)			10月19-20日（週末）			10月21日(月)		
イベント			イベント			イベント		
CNH	中GDP	0.25日	GBP	英議会採決	6.00日			
CNH	中鉱工業生産	0.25日	JPY	英議会採決(波及)	0.60日			
大口足			大口足			大口足		
USD JPY	107.00	1,010本				EUR USD	1.1095	1,030本
USD JPY	107.85	1,520本				USD CNH	7.0000	1,000本

スポット・シミュレーション

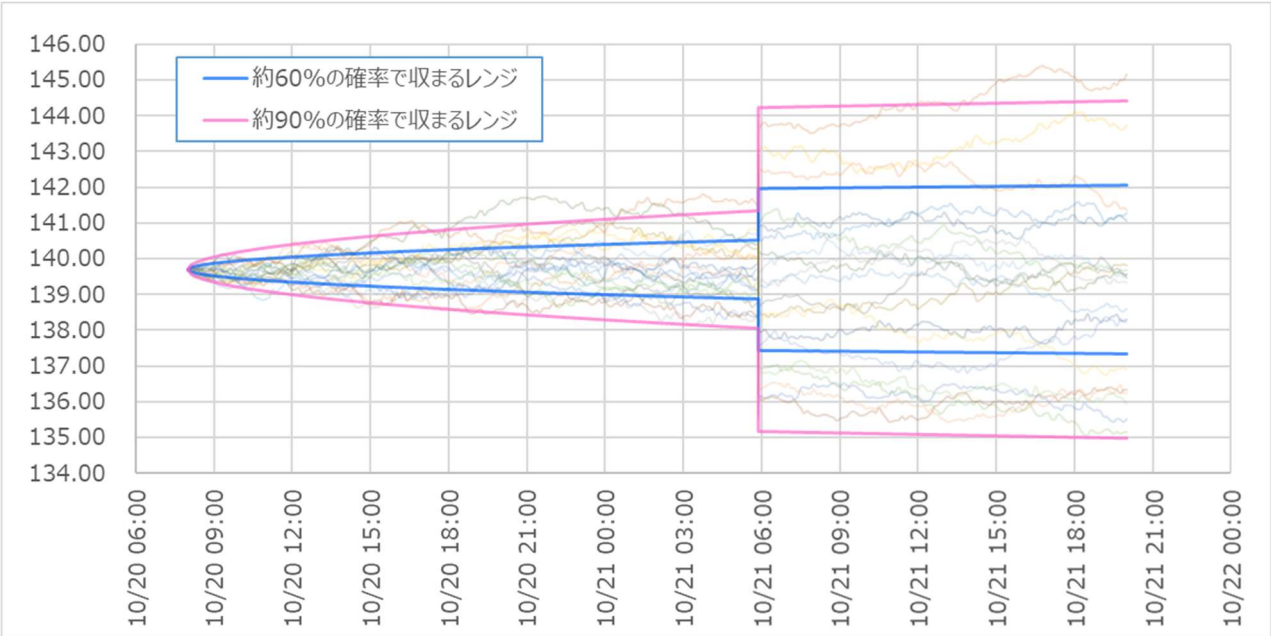
週末の英国議会採決に非常に大きなイベントが乗っており、**週明けに大幅なギャップオープンをする可能性がある。**ドル円と注目のボンド円のシミュレーションを記載します。

- SBIリクイディティ・マーケットのオプション評価モデルに基づいた本日のスポット値動きのシミュレーション結果です。
- 細い線のそれぞれの色が1回のシミュレーション結果で、20回分の結果を記載しています。
- 太い線はそれぞれオプション市場から計算される、スポットがレンジ内に収まる確率を表しています。
- シミュレーション結果は実際のスポットの値動きを保証するものではありません。

ドル円（2019年10月18日8時時点・ドル円スポット108.60前提）



ポンド円（2019年10月18日8時時点・ドル円スポット139.70前提）

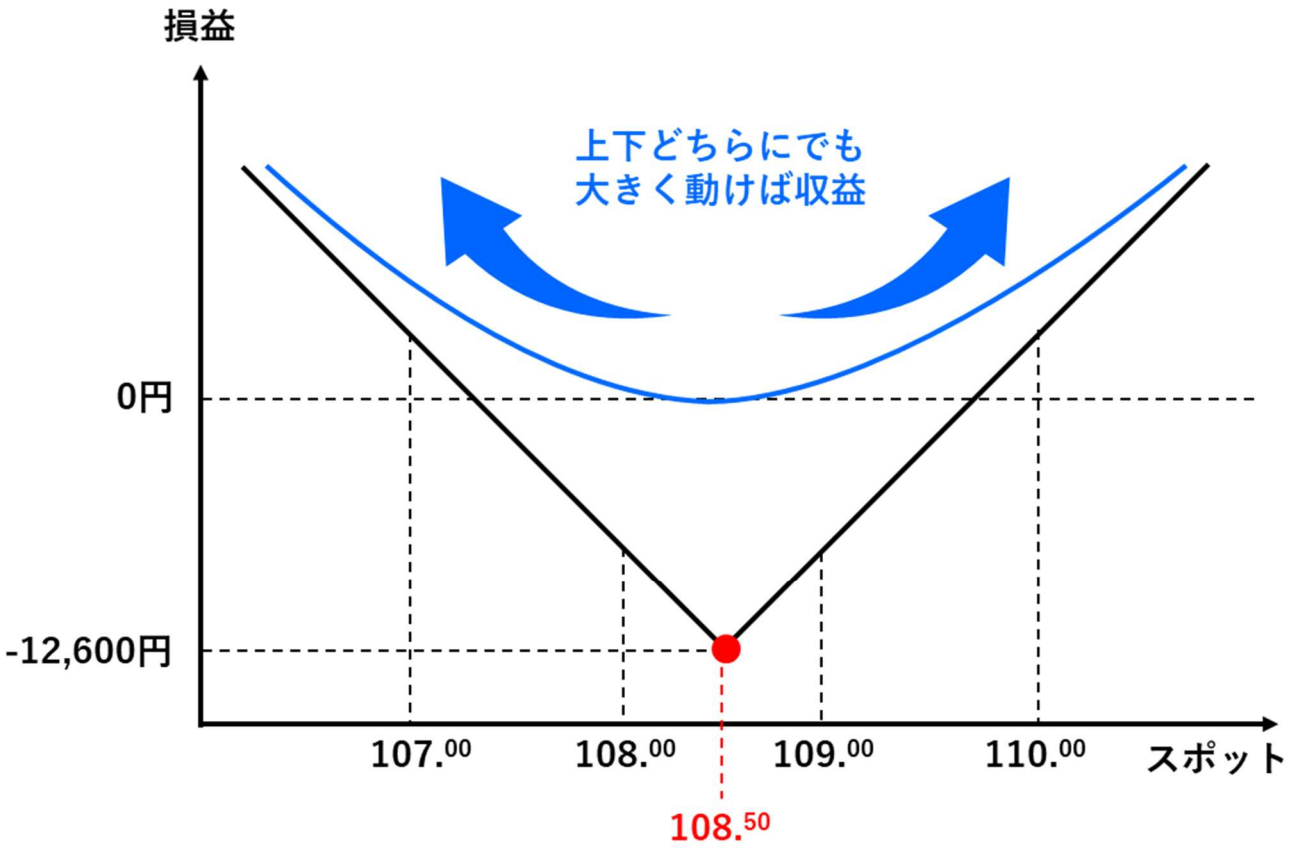


オプション戦略

週末の英国議会採決に注目が集まっており、ドル円もその影響でギャップオープンする可能性があります。先週後半からの米中通商交渉や英離脱交渉に対するドル円の値動きは、連日オプション市場から予想された値幅を超えており、今回も予想以上の値動きを見せる可能性があります。今回は上下という方向ではなく、値幅に対する戦略である、ストラドルの買いを紹介します。以下のように108.50ストライクのドルプットとドルコールを同時に購入することで、上下どちらにでも大きく動けば収益が上がるポジションを作ることができ、ストラドルと呼ばれる戦略になります。（※オプション戦略コラムは情報提供が目的であり、お客様にオプションFX取引、及び、FX取引を勧めるものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。）

（2019年10月18日10時時点・ドル円スポット108.65前提）

11月限月 108.50ストライク ストラドル（ドルプット ＋ ドルコール）

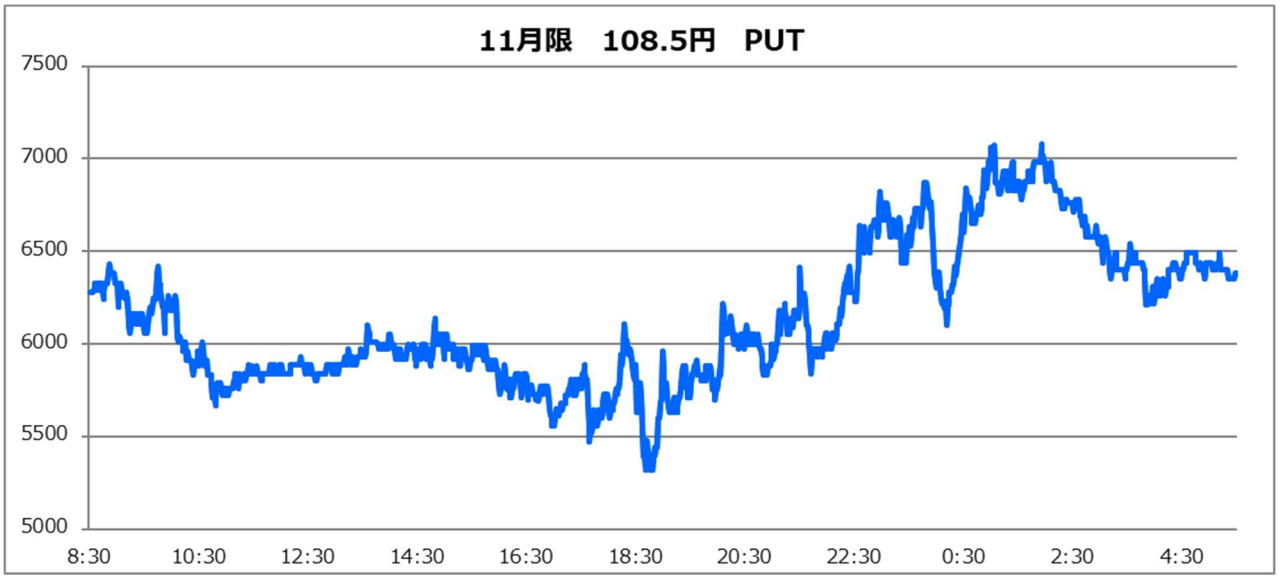


オプションFXプレミアム推移

2019年10月17日(木) 営業日取引

PUT				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
109.00	8,880	10,090	7,510	9,080
108.50	6,240	7,150	5,250	6,380
108.00	4,330	4,960	3,620	4,400

※新規購入サイドのプレミアム価格



CALL				
権利行使価格	始値	高値	安値	終値
109.00	4,370	5,390	3,360	3,950
108.50	6,800	8,170	5,450	6,290
108.00	9,910	11,570	8,280	9,330

※新規購入サイドのプレミアム価格

オプションFX用語集

インプライド・ボラティリティ – インターバンク市場でオプション取引に使用される価格変動率。オプションの価値算出に使用されるパラメータで、ヒストリカル・ボラティリティが過去の値動きの価格変動率なのに対し、インプライド・ボラティリティは**将来の値動き**を市場参加者が予想した価格変動率になる。

ヒストリカル・ボラティリティ – スポットの**過去の値動き**から計算される価格変動率。将来の価格変動率の予想値であるインプライド・ボラティリティを求める際の参考値となる。インプライド・ボラティリティは将来マーケットクラッシュなどが起きる可能性を含んだリスクプレミアムが乗っているため、ヒストリカル・ボラティリティより高くなりがち。

リスクリバーサル – リスクリバーサルは、もともとオプションの取引手法の名前。一般的には行使期日、想定元本、デルタが同じ OTM(アウト・オブ・ザ・マネー)のコールとプットを反対売買する取引のこと。スポットの値動きが単純なランダムであれば、コールとプットのインプライド・ボラティリティは同じになるはずだが、実際の市場では同じにならない。市場の需給や相場観を反映し、インプライド・ボラティリティに差が生じるため、**コールからプットを引いた差分**をリスクリバーサルと呼ぶ。例えば、リスクリバーサルがドルコール（上サイド）の高くなる方向に動いたとすると、オプション市場が将来ドル円スポットの上昇する確率が高くなったと考えていることを表している。

イベント・プレミアム – 米雇用統計などの重要イベントに対して、インプライド・ボラティリティからどの程度の価格変動が織り込まれているかを計算することができる。その**特定イベントによって追加される価格変動**をイベント・プレミアムと呼ぶ。SBI リクイディティ・マーケットではイベント・プレミアムを**日数ベース**で管理している。

その他の用語解説は HP 上にあるオプション FX の用語一覧をご参照ください。

筆者略歴

鈴木 亮（Ryo Suzuki）

SBIリクイディティティ・マーケット株式会社 経営企画部 部長

SBIリクイディティティ・マーケット株式会社の経営企画部長として情報発信や新商品開発を通してオプションFXのビジネス拡大に努める。2009年、三菱東京UFJ銀行（現、三菱UFJ銀行）入社、以来約10年間通貨オプショントレーディング業務に従事。約4年間のニューヨーク勤務を経て、ヘッドオプショントレーダー就任。2019年より現職。

※お客様は、本サービスで表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、 複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。

※情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。 また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

※本サービスは、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。